

2014 平和行動 in 長崎

「願う」平和から「叶える」平和へ つながろうNIPPON!

「連合2014平和ナガサキ集会 ～核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現を求めて～」



8月8日(金)15時30分から長崎県立総合体育館・メインアリーナにおいて、「連合2014平和ナガサキ集会」を連合主催、原水禁・KAKKIN共催、また後援として17団体(長崎県、長崎市など)に賛同いただき開催しました。台風の影響が心配されるなかでの開催となりましたが、全国より3170名にご参加いただきました。

【第1部「2015NPT再検討会議に向けて」】

連合長崎 森光一会長の開会あいさつの後、連合 神津里季生事務局長より主催者代表あいさつとして「2015年4月にニューヨークで開催されるNPT再検討会議まで、連合の構成組織・地方連合会、全組織をあげて、国内外の世論喚起に取り組み、必ず1000万署名を成し遂げ、日本政府はもとより、会期中には国連事務総長に署名を提出し、核兵器廃絶に向けた会

議での議論を強力に後押ししていく。」と述べました。

引き続き、来賓として、長崎県中村法道知事、長崎市田上富久市長、国際労働組合総連合(ITUC)ヤープ・ヴィーネン書記長代行からそれぞれごあいさつをいただきました。

基調講演として講師に長崎大学核兵器廃絶研究センター(RECNA)の広瀬訓副センター長を招き、「2015NPT再検討会議第3回準備委員会報告と再検討会議への展望」と題し、今年4月28日～5月9日に国連本部で開かれたNPT再検討会議第3回準備委員会の経過と、最近の国際情勢を踏まえた「2015NPT再検討会議」へ向けた展望について講演いただきました。



開会あいさつ
連合長崎 森会長



主催者代表あいさつ
連合 神津事務局長



来賓あいさつ
中村長崎県知事



来賓あいさつ
田上長崎市長



来賓あいさつ
国際労働組合総連合(ITUC)
ヤープ・ヴィーネン書記長代行



基調講演
長崎大学核兵器廃絶研究センター
広瀬訓副センター長

【第2部「次世代への継承」】

長崎平和推進協会継承部会の原田美智子さんより、爆心地から4kmの所で6歳の時に被爆した体験をお話いただきました。その後、平和広島代表团(代表：連合広島石井一清会長)よりピースメッセージ、「若者からのメッセージ」として、高校生平和大使、ナガサキ・ユース代表团より、それぞれの立場での報告と決意、

組合員とその家族による構成詩(歌と朗読で物語を構成)に続き、女性委員会白倉あけみ委員長が「ナガサキからの平和アピール」を読み上げ、満場一致で確認されました。アピール確認後、次の平和行動の地である根室へ平和の思いを託し、連合長崎森光一会長(左)から連合北海道 岡島光行副事務局長(右)へピースフラッグリレーを行いました。



長崎平和推進協会継承部会
原田様



平和広島代表团



ナガサキ・ユース代表团
西田様



高校生平和大使



構成詩



ピースフラッグリレー

ナガサキからの平和アピール

1945年8月9日、一瞬にして、7万4千人余が息絶え、7万5千人余が傷ついた、原子爆弾が長崎に投下され今年で69年目を迎えた。かろうじて生き残った人々も、今もなお放射線障害に苦しんでいる。今日、核兵器はいまだに世界に約1万7千発も存在し、人類は、核兵器の脅威にさらされ続けている。

2010年9月に日本とオーストラリアの主導で立ち上げた軍縮・不拡散イニシアティブ(NPDI)の第8回外相会合が、今年4月に日本で初めて広島で開催された。NPDI外相会合の議論の内容は「広島宣言」として採択された。人類の歴史上初めて原子爆弾が投下された広島に12カ国の外務大臣が集まり、原子爆弾の非人道的な結末を直に目撃し、「核兵器のない世界」に向けた決意を新たにした。

連合、原水禁、KAKKINの3団体で、核兵器不拡散条約(NPT)再検討会議に向けた「核兵器廃絶1000万署名」キックオフのシンポジウムを今年4月に広島で開催した。2015年4月にニューヨークで開催されるNPT再検討会議まで、連合の構成組織・地方連合会、全組織をあげて1000万署名と国内外の世論喚起に取り組んでいく。

私たち3団体は、核兵器を保有する国の駐日外国公館に対して、「核兵器廃絶」に向けた要請行動を昨年に引き続き展開している。今年はアメリカ、イギリス、フランス、中国、ロシアの各大使館に対し要請を行った。さらに、核兵器の恐怖を伝えるために、全国で原爆写真ポスター展も開催している。核兵器による悲惨な被害が二度と起こらないように「核実験の中止」、「核兵器廃絶」に向けて、今後も世界に向けて強く、広く、働きかけを続けていく。

また、2015年NPT再検討会議に向けて最後となる2014年5月の第3回準備委員会において、日本はNPDI諸国と共同で核軍縮、透明性の向上、核兵器の役割低減など新たな作業文書を提出している。私たちは2015年NPT再検討会議が迫っている中で、すべてのNPT締約国に対し、2010年に合意した行動計画の完全かつ迅速な実施を引き続き求めていく。

一方、被爆者の問題では、広島、長崎に投下された原爆で被爆し、ピーク時の1981年に約37万2千人おられた「被爆者手帳」を持つ人は、今年3月末の時点で19万2700人まで減り、平均年齢は79.44歳と高齢化が続いている。このため、活動を停止する地方の被爆者団体も増えて、核兵器廃絶を次世代へ訴える体験の継承が大きな課題となっている。

私たちは、2015年NPT再検討会議に向けて、核兵器廃絶と世界の恒久平和の実現をめざして、これからも国際労働組合総連合(ITU)や、平和首長会議、長崎平和推進協会をはじめ、長崎大学、長崎外国語大学などの教育機関やNGOとも連携し、職場や地域における核兵器廃絶運動を粘り強く取り組むことをここに宣言する。

2014年8月8日

「連合2014平和ナガサキ集会」

「ピースウォーク」

8月9日(土)14時から連合長崎青年委員会・女性委員会メンバーによる「ピースガイド」の案内で、爆心地公園・平和公園の8箇所のモニュメント・碑巡りを行いました。あわせて、「核兵器廃絶1000万署名」街頭行動を行い、原爆落下中心地公園を訪れた人に署名を呼びかけました。



「連合2014平和行動in長崎」の成功に向けて！

「平和の泉(平和公園)」清掃

7月19日(土)、連合長崎青年・女性委員会、構成組織組合員と家族、約80名の参加により、平和公園内にある「平和の泉清掃」を行いました。

平和の泉は、1969年、核禁会議(現：KAKKIN)の呼びかけによる国民カンパにより建設し、長崎市に寄贈しました。清掃は、以前は核禁会議が実施していたものを、1999年より連合長崎が引き継いで毎年実施しており、今年で16回目となりました。

参加者は、平和の願いを込め、デッキブラシやたわしを使い、平和の泉の中のコケなどの汚れを落としました。また、泉の中のお賽銭も拾い集めました。拾い集めたお賽銭は、きれいに洗い流し、後日原爆資料館

へ納めることとしています。

また、あわせて「核兵器廃絶を求める街頭署名」を行い、平和公園を訪れた人に署名への協力を呼びかけました。



参加していただいた皆さん

連合長崎平和キャラバン隊出発式

日本は世界で唯一の被爆国であり、広島と長崎から恒久平和を願い、8月5～6日に広島で開催される「連合2014平和行動in広島」へ平和キャラバン隊を編成し、街宣行動を展開しています。このキャラバン隊の出発式を8月3日(日)の11時30分から長崎市役所前で行いました。

<2014連合長崎キャラバン隊メンバー>

中村 修治(青年委員会・電力総連)
 吉田 未礼(青年委員会・JP労組)
 坂本久美子(女性委員会・自治労)
 本田恵美子(自治労)
 鴨川 博明(連合長崎)



連合長崎青年委員会中村委員長の決意表明



連合長崎 森会長の激励



出発を見送る参加者

万灯作成

※万灯流しについては
台風の影響により中止

7月26日(土)、電気ビル大ホールにおいて組合員とご家族約90名の参加で万灯作成を行いました。万灯作成は、8月9日の万灯流しの準備として、①次世代への継承、②親子のふれあい、を目的とし開催をしています。

作成に入る前には、平和学習会として、長崎平和推進協会 継承部会の松尾幸子様を招き、被爆体験講話を行いました。講話の後、参加者は平和の願いを込めて万灯を作成し、650個の万灯を作成しました。



親子で作業中



参加していただいた皆さん



長崎平和推進協会 松尾様

「連合2014平和行動in長崎」に関わっていただいた組合員・家族の皆さん、ありがとうございました。皆さんのおかげで無事に終了することができました。

「すべての核兵器をなくし、世界の恒久平和を実現!」していくため、これからもよろしくお願いいたします。

連合2014平和行動in広島

8月4日(月)～6日(水)に開催された「平和行動in広島」には、連合長崎から森会長以下17人が参加しました。

4日(月)は現地で結団式を行い、5日(火)には、「被爆路面電車乗車学習会」、「ピースウォーク」、「連合

2014平和ヒロシマ集会」へ参加し、最後に「平和の光」行動で締めくくりました。最終日の6日(水)は「広島市原爆死没者慰霊式並びに平和祈念式(広島市主催)」と連合長崎が連合広島に1995年に寄贈した「平和の鐘打鐘式」に参加しました。



被爆路面電車乗車学習会



広島行動に参加した皆さん



連合2014平和ヒロシマ集会

連合長崎 2014年友好首長・議員フォーラム(スクラム21)総会・研修会を開催!



研修会の様子

2014年7月19日(土)、ホテルセントヒル長崎にて連合長崎「2014年友好首長・議員フォーラム(スクラム21)総会・研修会」を開催しました。総会・研修会には、友好首長・議員、連合長崎執行委員等、総勢56人が参加しました。

総会では、構成員の確認や2014～2015年の活動方針等について確認を行い、研修会では連合総合労働局の新谷総局長を講師にお招きし、現在、政府が検討を進めている「労働者保護ルールの規制緩和」について、特に「労働時間の規制緩和(残業代ゼロ政策)」、「解雇の金銭解決制度」、「外国人材の活用」を中心に、進捗状況やそれに対する連合の考え方をご講演いただきました。

「労働者保護ルールの規制緩和」については、各地協、友好議員との連携のもと、「慎重に議論を進めること」、「ILOの原則に基づき、政労使で協議を行う場を設定すること」を求め、地方自治法第99条に基づく意見書採択に取り組んできました。(6月議会では、長崎市議会、大村市議会、五島市議会、長与町議会にて採択)

今後も、私たちがめざす政策・制度実現へ向け、連合長崎友好首長・議員とさらなる連携を深め、各種、取り組みを進めてまいります。



渡辺代表 あいさつ



講師：新谷総局長

最終の講座には「連合古賀会長」が登壇！

連合長崎寄付講座の最終(15回目)の講座が7月16日(水)に開催され、連合の古賀会長が登壇し、「働くことを軸とした安心社会に向けて」というテーマで学生たちに講義を行いました。

古賀会長は、「働くことを軸とする安心社会」の構築へ向け、連合が掲げる5つの「安心の橋(①働くかたちを自由にする橋、②教育と雇用をつなぐ橋、③失業と雇用をつなぐ橋、④家族と雇用をつなぐ橋、⑤退職と雇用をつなぐ橋)」を架けていくために、『「トランポリン型のセーフティネットの構築」や『女性の社会参画』などの政策を1つずつ実現するために運動を推進している』ということ、また、これらの運動を推進していくためには、「社会の共感を得る運動や様々な人たち(NPO等)との連携をはかりながら運動を展開していかなければならないこと」、「発言力、発信力を強めるために私たちの仲間を増やしていくこと」が必要であると語られました。

次に、「働くことはどういうことか」について、4つの

視点として「時間や能力を働くことを媒体として生活していくこと」、「自分自身を見つめなおす機会をつくってくれること」、「社会に関わっていくということ」、「人と人をつなぐものであるということ」を学生たちに伝えられました。

そして最後に、「若さ」とは「失敗できること」、「エネルギーがあること」、「吸収できる」ということであると述べられ、「この『若さ』という強みを活かして、生き生きとした日本の社会を作り上げていくための原動力になっていただきたい」と学生達にメッセージを送られました。

今回の古賀会長の講座で2014年度連合長崎寄付講座は終了となりましたが、講座には毎回500名以上の学生たちに参加いただきました。ご協力をいただいた皆さんに感謝するとともに、来年度については、より良い講座を学生たちに提供できるよう、講座の内容や講師陣の充実をはかってまいります。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。



講座を行う連合古賀会長